

ロータリー・リーダーシップ研究会 RLI

日本で最初に、ロータリー・リーダーシップ研究会(以下 RLI と省略)の詳細を紹介したのは私です。2003 年末に田中作次氏(当時は RI 理事エレクト)から、RLI について調べてもらいたいという依頼を受けました。早速 RI の日本課に連絡を入れて、2003 年 8 月に改定されたばかりの RLI のマニュアルを送ってもらい、その翻訳にとりかかりました。2004 年正月になって、やっと翻訳が完成しましたので、田中氏にお渡ししました。

その後どうなったかについて何の連絡もありませんでしたので、お聞きしますと、あるシニア・リーダーからの強い反対を受けたため、日本における採用は断念したとのことでした。

その後、2008 年ごろから、日本で RLI を実施したいという地区が表れて、2008 年 5 月に 2750 地区において、日本最初の RLI が開催され、2830 地区、2770 地区、2640 地区、2650 地区、2710 地区、2730 地区へと広がっていきました。

それに伴って日本で RLI を実施している地区を取りまとめる組織ができて、事務局を第 2750 地区事務局に置き、日本支部委員長南園義一 PDG、副委員長黒田正宏 PDG、事務局長川尻政輝 PDG というスタッフが選出されました。

どのような経緯で、日本の RLI 導入の作業が進んだのかは分かりませんが、最初の日本語版マニュアルを作って、これを紹介したのは私なのに、私には何の声も掛からずに勝手に RLI が進められていることに、内心穏やかならざる気分であることは、私の度量の狭さでしょうか。

思い出すといろいろな出来事がありました。1999 年にフランク・デブリン RI 会長から直接依頼されて日本のロータリーにインターネットとメールのやり取りをする組織を立ち上げ、RI から提供される情報を日本語に翻訳して提供する作業を 3 年間続けましたが、情報を受け取る立場にあるガバナー会なる得体の知れない組織によって、兵糧攻めで潰されました。

また日本と韓国の間で、規定審議会に提出する立法案について相互協力したり、インターネットによる情報交換をするための組織作りを準備していたら、設立直前になって、全く異なった次元の組織に乗っ取られました。

まあ、私にはアーサー・フレデリック・シェルドンの研究という、誰も動かすことのできない巨大な錘をつけていますから、これを少しずつひも解きながら、楽しく余生を過ごしたいと考えています。これとは別に、ロータリーの文献を蒐集して、これをデジタル化してインターネット上に維持保存すると共に、これを閲覧に供するという新しい仕事もできましたので、これは誰かに乗っ取られないように慎重に管理する必要があるかも知れません。

閑話休題

RLI は 1992 年にアメリカ・ニュージャージー州で、デビット・リンネット元 RI 理事の提案の提案によって始められた研修組織で、1994 年にはニュージャージー州の 3 つの地区が加わり、その後 1998 年にはアメリカ北東部、中部太平洋岸、カナダまで広がり、現在は 80 か国、36 支部、153 の地区に広が

った、RI 理事会が承認した多地区合同奉仕プロジェクトになっています。

研修セミナーの参加者は、希望者を募るのではなく、クラブの会長が指名することになっています。クラブ会長は、クラブ内の将来の指導者として成長する可能性のあるロータリアンを選んで、このセミナーに参加させることが望ましいとされています。

このセミナーは、参加者にとって、最も都合のよい場所と時間に行われ、その内容は講演や講義ではなく、参加者全員によるディスカッション方式が推奨されています。研修プログラムは3コースありますが、参加者は全部のコースに出席することが奨励されています。

なお私は、この RLI は指導者を養成するという手法の上で価値があるとしても、ディスカッション方式でロータリーの奉仕理念を学ぶことは不可能であるという立場から、これを積極的に支持する立場ではないことを付け加えておきます。

セミナーの詳しい内容については、2003 年に私が翻訳したマニュアルが、その後も引き続き使われているようですので、参考にしてください。

[ロータリー・リーダーシップ研究会マニュアル](#)